

三軒茶屋

稲宮 健一

ぶらタモリで大山街道が題目になり、その一部に三軒茶屋版があった。世田谷区上馬は私の生まれ故郷で、三軒茶屋は一番近い大きな商店街である。就職し伊丹に赴任するまでここに住んでいた。

戦前の記憶は自宅の近所の様子しか頭に残っていない。戦後、疎開から戻ってきて、殆ど戦火で焼き尽くされた市街地が目に見えなくなる。三軒茶屋の交差点に面した焼失した関東配電（今の東京電力）は今、雑居の商店ビルになっている。そこから、下北沢に通じる道沿も両脇の商店は焼けて家並みはなく、歩道沿いに大きな風呂敷などを掲げた上に、新品とは言えない、鍋、釜、布地、端切れなど生活用品を並べ、素人臭いおじさんが声を張り上げ売っていた。この道は、今はしゃれた茶沢通りと名が付きバス通りになっている。

交差点の近くに戦後のバラック建ての面影を残した三角地帯に、ちまちまとした店が入っている商店街があり、持ち主や、業種は変わってしまったが、今でも気軽に入れる雰囲気のお店が残っている。その隣の少し広い空き地に二軒の映画館があった。「エノケンロツパの新馬鹿時代」とか、三益愛子の「母のもの」とか、何やかにやらと覚えている。通学には渋谷まで、玉電、渋谷から都電で霞町まで毎日通った。全部路面電車で、電車道は石畳みにレールが敷かれ、電車の両脇にバスやトラック、たまに乗用車が走れる一車線の車道があった。それが、六四年のオリンピックの掛け声で、倍以上の道幅になり、その道の上には高速道路が鎮座しました。そして路面電車は消え、地下鉄に取って代わった。

茶沢通り付近は太子堂と言う、付近にある円泉寺に祀られた聖徳太子に因んでいる。また、この付近はやたら馬のついた地名が多い。上馬、下馬、駒繋など、頼朝が奥州遠征の折、馬を繋いだことに起因している。現在住んでいる隣の港南区にも、馬洗橋という地名がある、いずれも頼朝が馬を洗ったとか、古の権力者の足跡は残るものだ。

（二〇二五・七・一〇）

当時の玉電は渋谷が起点で、二子玉川と下高井戸を結んでいた。三軒茶屋は両方向の分岐点で、現在でも、下高井戸行は世田谷線として残っている。